

伝統を繋ぐ仕事

平城宮跡歴史公園 第一次大極殿院 東楼 復原整備工事

私が紹介します！

竹中工務店 大阪本店 作業所 建築担当

こにし かずひと

小西 和仁

31歳 現場経験年数8年

最近のニュース

猫を飼い始めました！



あんこ♀
キジトラ

この特集は3部作構成の3作目です。

仕事への取組み

令和5年に着手した鉄骨造3階建工場を竣工引渡後、令和6年7月よりこのプロジェクトに配属されました。伝統建築の復原事業であり、当社のなかでも朱雀門、大極殿から続く、過去最大級のプロジェクトで、部材の名称を覚える事から始まりました。仕事において大切にしていることは、安全管理と品質管理です。安全に関して奈良時代と現代で管理手法に天と地ほどの差がありますが、復原のため、当時の材料や技法を再現し品質を確保しながら現場を進めています。作業員の作業効率を落とすことなく、安全に作業する方法を常に検討・実践し、当作業所から事故、公衆災害等を起こすことなく、全員が毎日無事に家へ帰れるように日々施工管理を行っています。

主要工事職長と私



左から 山本瓦工業 串崎職長 三宅塗装店 松井職長
竹中工務店 小西(私) 瀧川寺社建築 瀧川棟梁

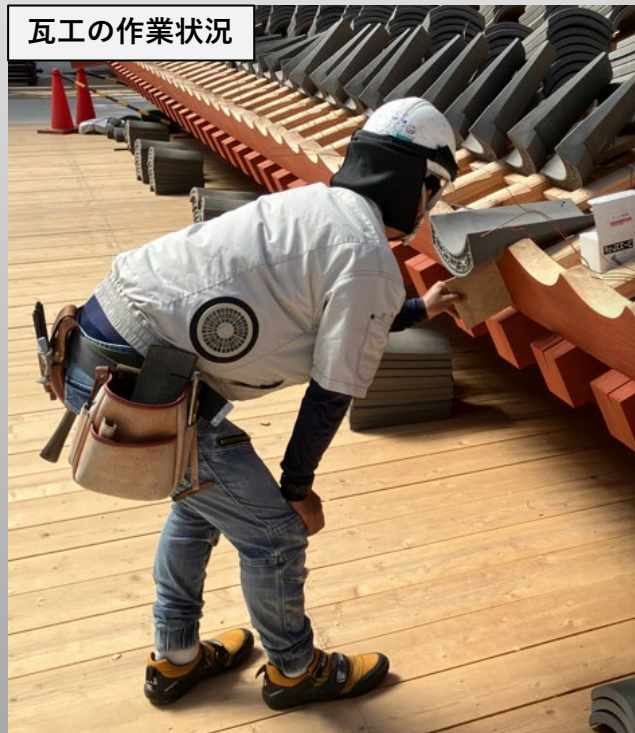
平瓦配置状況



現地打ち合わせの様子



瓦工の作業状況



私が生まれた1993年頃は朱雀門を建設中でした。当時ほどの建設会社が施工しているか把握していませんでしたが、就職活動で竹中工務店が朱雀門、大極殿を施工していると知り、私も伝統建築に携わってみたいと考えました。竹中工務店に入社すれば携われる可能性は高くなると確信していました。縁があり当社に入社し、生まれ育った奈良の地で、伝統建築に携われていることに誇りに思います。伝統建築の施工技術は、後世にも伝えていかなければなりません。それは実際に作業に従事している職長や作業員のみならず、施工管理をしている我々も同様に後世へ伝えていく必要があります。当社の中でも伝統建築経験者は多くはありません。当プロジェクトを通して技術を吸収し、今後の伝統建築プロジェクトに生かせるように伝承することが私の責務だと思っています。